

動画 資本の破局と 21 世紀社会主義の展望 趣旨

8月29日に開催される日中社会主義フォーラムでの報告「資本の破局と 21 世紀社会主義の展望」について、協会の有志で討論しました。それを公開します。

資本の破局については、ラッツアラートの『「借金人間」製造工場』（作品社、2012 年）での提起を受けて 2016 年に負債経済論としてまとめたことがありました。

他方、戦争になって以降、戦争論の研究と日本の安全保障についての調査を進める中で、日本社会が破局を迎えているという思いが日々強まりました。その経過については『協同組合運動研究会報』に、「失われた 30 年の原因と日本社会の今後」上（331 号）。中（332 号）を参照してください。

今回の討論では、ソ連崩壊の原理的根拠を 1980 年代末に解明して以降、1990 年代末の地域通貨の経験、そして、その後の負債経済論という三点セットで報告が作成されたことについて皆さんの意見を聞きました。

今回の報告の新しい問題提起は、日本社会の破局を米国の一極支配の破局と関連付けたことです。米国の凋落については 1970 年代からずっと主張されてきましたが、軍事研究の民営化によって米国がいち早く情報社会を切り開き、覇権を維持してきたのですが、中東での支配の破綻と中国の台頭によって、軍事力とドルという両輪が、弱体化し、米国自身はその破局状況を認識していることがロバートケネディジュニアの大統領選立候補演説から知ることができます。